

## 球磨神楽

舞手がお面を付けず（直面ヒタメン）、鈴や御幣、剣などを持って舞う「採物舞トリモノマイ」を主体とする神楽。

10月8日の青井阿蘇神社おくんち祭の宵宮（前夜祭）奉納を皮切りに、約2か月間、人吉球磨の43神社の祭礼で奉納される。本来は33番の演目であったが、現在は17番のみ。起源は不明だが、文明4年（1472）に郡内が干ばつとなった際、雨乞いのため青井阿蘇神社で「御神楽」を奉納したとする相良家歴史書の記録が初見。現在は、球磨神楽保存会により次世代への継承活動が行われている。平成25年（2013）国指定無形民俗文化財に指定。

【出典】日本遺産ポータルサイト（文化庁） <https://japan-heritage.bunka.go.jp/>



## 臼太鼓踊り

太鼓打ちが10数人、鉦打ちが数人で編成され、太鼓と鉦を交互に打ち鳴らしながら乱舞する踊り。太鼓打ちには牛や鹿・鍬形の兜をかぶり男性的な衣装で、鉦打ちは笠（シヤグマ）をかぶる女性的な衣装で踊る。起源は不明だが、一説では、領主相良氏が、武道奨励や士気鼓舞のために始めたとも伝えられる。江戸時代の明和3年（1766）に御館御門橋の落成を祝い、郡内各所の踊り組が老神社や永国寺に集まって踊った記録が初見。現在でも郡内の20数組で伝承されている。

【出典】人吉球磨ガイド <https://hiyoshikuma-guide.com/>



## 兵法タイ捨流

《江戸初期の剣客》丸目藏人（まるめくらんど）が興した剣術の流派である。兵法タイ捨流の「タイ」という言葉には、「大・体・待・対・太」など複数の意味合いが含まれている。

「大」は、丸目藏人の師である上泉信綱（かみいずみ・のぶつな）の死後「偉大な師を失った」という意味を示す。そのほか、「体」とすれば体を捨てるにとどまり、「待」とすれば待つを捨てるにとどまり、「対」とすれば対峙を捨てるにとどまり、「太」とすれば自性に至る。また、これらの言葉にとらわれない自在の兵法である。

【出典】兵法タイ捨流公式WEBページ <https://www.taisharyu.jp/>



## 庖丁式

庖丁式は、平安時代から伝わる食儀礼。

日本庖丁道大草流は、室町時代、足利義満に仕え弓道の達人といわれる大草三郎左衛門公次を流祖に古式を伝える流派の一つ。烏帽子（えぼし）、直垂（ひたたれ）をまとい、庖丁とまな簀を用い、一切手を触れることなく、鯉、真鯛、真魚鰻などを調理します。古式に則った所作とその庖丁さばきは、熟練の技。日本料理の伝統を今に伝える厳粛な儀式です。

